



笑顔

新宮市立王子ヶ浜小学校



熊本大地震において、被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに、1日でも早く復興・復旧できることを願います。

自らの命を守る

当地方で、近い将来必ず起こるであろうと考えられている大地震・大津波について、群馬大学片田敏孝先生のご講演で学んだことを紹介します。

3.11大津波で千余人の犠牲者を出した岩手県釜石市にあって、小中学生約2,900人は、学校にいなかった5人の犠牲者を除いて、全員が無事でした。その釜石市の防災教育を7~8年にわたって指導されてきたのが、片田敏孝先生です。

(1)温暖化による気象の変化により、いつ大災害がおきても不思議ではない。

(2)大災害は長いレベルの周期のため、危機意識の希薄化を生む(ひいおじいちゃんの時代にはあったらしいよ……)。先人が必死の思いで建てた碑の存在すら忘れられてしまう。

(3)人為的防災レベルをあげればあげるほど、それに依存し、想定にとらわれすぎてしまうというのが、今の防災の問題点。

(4)防災の最大の目的は、災害ごときで人を死なせないこと。

(5)「大いなる自然の営みに畏敬の念をもち、他にゆだねることなく、自らの命を守ることに主体的であれ」の信念に基づく避難3原則。

① 想定にとらわれるな…相手は自然。防災設備やマップを超える可能性も大。

② 最善をつくせ…その日、そのとき、その状況下で、自分にできるベストを尽くすのみ。

③ 率先避難者たれ…「大丈夫、安全と聞いたがる習性」を打ち破ってまず自分が逃げる。それが他の人の避難を誘い、結果的に多くの命を救う。

(6)子ども達に、防災に対する主体的な姿勢を醸成することが大事(姿勢の防災教育)。自分の命を守るという姿勢、相手は自然、それに向かって最善を尽くすという姿勢。

(7)子ども達への教育だけでは不十分。子どもが学校にいる時間は5分の1。残り5分の4は家庭・地域にいる時間。子どもは環境の影響を受けて育つ。逃げない大人が多い地域では、子どもも逃げない。結果的に子どもの命を奪うことになる。

学校・家庭・地域が連携して、その日、その時、生き抜ける子どもに育てていきましょう。

運動会について

本年度の運動会は、9月25日(日)に開催します。

昨年度は、秋に和歌山国体があったため、春(5月)開催としました。今年度は、秋開催にもどしてみ、暑さの具合(練習時も含めて)、市内小学校の動向等を考慮して、来年度以降をどうするか、10月中に決定してお知らせすることとします。ご了承ください。

第1学期学級委員

3年1組	廣里璃海	岩澤莉愛
3年2組	前田琉成	川嶋音々羽
4年1組	東洗太朗	中浦心陽
4年2組	・ 優飛	玉置優羽
5年1組	古川幸乃真	山田有里菜
5年2組	大槻虎生	丸山梨歩
6年1組	永野太一	板谷観来
6年2組	田畑玲人	山本美伶

去る4月18日(月)に学級委員任命式を執り行いました。上記の皆さんに任命書をお渡ししました。

みんな、クラスのリーダーとして頑張ろうという熱い思いが伝わってきました。1学期間、よろしくお願ひします。